日本赤十字看護大学紀要　No. 21, pp. 55～62, 2007

資　　料

日本赤十字社病院・同中央病院における看護婦・人等養成に関する歴史的資料の基本調査：日本赤十字看護大学所蔵分について

川　原　由佳里
吉　川　龍　子
川　島　みどり

A Classification of Historical Materials Relating Nurse Training at Hospital and Central Hospital of the Japanese Red Cross Society: Focused on Materials owned by the Japanese Red Cross College of Nursing

Kawahara, Yukari
Yoshikawa, Ryuko
Kawashima, Midori

Abstract

The purpose of this study is to classify historical materials relating nurse training at hospital and central hospital of the Japanese Red Cross Society which are owned by the Japanese Red Cross College of Nursing. The materials were investigated in terms of name, chronological age, number and a state of preservation. Those data are clustered and classified according to chronological age. Some materials which are damaged are given treatments for preservation.

As a result, the materials are listed and categorized as follows; (1) text and material relating education, (2) list of student, student's grade and school record, (3) diagrams (kake-zu), (4) picture, and (5) audio and movie record. Some materials are in poor state of preservation, and needed to restoration. It is suggested that further investigation of these materials and the database on Web are needed for more utilization to the education and research of nursing history.

Key words: Japanese Red Cross, nursing education, nursing history, historiography, material preservation

Ⅰ．調査の背景と動機

日本赤十字社は1877（明治10）年の西南戦争の折，佐野常民によってその前身である博愛社として設立された．赤十字は国籍，人種，政治，思想，文化にかかわらず，あらゆる状況下において人々の苦痛を予防し軽減するという人道の理念と，必要とあらば国内外を問わず救護活動

受理：2006年12月13日

を行うという国際性を特徴とする．

日本赤十字社は，諸外国の赤十字社の動向をふまえつつ早い段階から看護婦[注1)]の養成のための準備をはじめていた．1886年（明治19）年，平時における救護員の養成を目的に麹町区（現在の千代田区）飯田町に博愛社病院を創設した．政府のジュネーブ条約加入に伴い，翌年には日本赤十字社病院と改称して，赤十字看護婦の養成の目的を明確にしていった．看護婦養成が開始されたのは，病院設立より3年が経過した1890（明治23）年4月1日である．現在の日本赤十字看護大学の起源はここにある．

1891（明治24）年，日本赤十字社病院は南豊島群渋谷村（現在の渋谷区広尾）に移転した．看護婦生徒は日本赤十字社が募集し，入学させていたが，日清戦争の戦時救護を機会に，全国の赤十字看護婦の質を均一化するため，各支部から選出した模範看護婦生徒を教育した．明治38年からは各支部で学業を終えた者に対し，日本赤十字社病院で1年または2年の実務教育を行う制度が加わった．創立当時の修学年限は1年半，その後に実務2年と定められていたが，1896（明治29）年に3年に定まった．

1907（明治40）年からは看護婦長候補生の養成が，大正から昭和にかけては看護婦外国語学生と社会看護婦の養成が行われた．日華事変が勃発してからは救護看護婦の養成が急務となり，生徒の増員と修学年限の短縮が行われ，戦時の事情により1941（昭和16）年4月より乙種救護看護婦生徒の教育もなされた（従来の看護婦は甲種と呼ばれた）．1945（昭和20）年8月の終戦により乙種の養成は廃止された．

1946（昭和21）年6月には財団法人日本赤十字女子専門学校が設立され，教育機関が病院から独立した．昭和21年に発足した日本赤十字女子専門学校は，連合軍に校舎を接収された聖路加女子専門学校とともに，連合軍総司令部（GHQ）から看護教育モデル校として選ばれ，両校は設置主体をそれぞれ保ちながら，GHQ看護課の指導のもとに看護教育模範学院として共同運営された．1953（昭和28）年聖路加女子専門学校の校舎が接収解除となり，同年7月模範学院は解散した．1954（昭和29）年には学校法人日本赤十字女子短期大学が新設された．1966（昭和41）年には学校法人日本赤十字学園が発足して，校名を日本赤十字中央女子短期大学と改称した．1986（昭和61）年に日本赤十字看護大学が開学した．

これらの日本赤十字社の看護婦養成事業と救護活動に関して，日本の保健医療の近代化に大きな役割を果たし，女性の地位向上に貢献したとする研究（亀山，1983）や，また戦時の救護活動に関して戦争協力への責任を問う意見があり，その歴史的評価は様々である．過去の研究を振り返ってみると十分な史料を収集し，批判を行った後に内容を解釈し，研究者の歴史認識に基づいて叙述しているものは少ない．その理由としては日本の看護学において歴史研究はまだ十分に行われていないこと，近代以降の看護に関する出来事や発展を伝える関連史料の体系的整備が行われておらず，その蓄積や公開は個人や各機関の意志に委ねられていることがある（酒井，1995；高橋，2004）．

日本赤十字看護大学が1890（明治23）年の創立以来所蔵する史料は，看護婦養成に関する貴重な史料と考えられる．その内訳は教科書，掛図などの教材をはじめ，生徒名簿，日誌，写真，衣類，物品などの多種にわたる．かつて1935（昭和10）年に看護婦教養所が新築される際に教材室が整備され，養成部由藤広次郎氏が教育材料備付簿を整備し，教材室にて教材を一般公開していた（日本赤十字社，1957）．ただしその主眼は歴史的資料の保存ではなく，看護婦養成のための教材資料の整備，保管であった．それ以降，史料は本学の一角に収められ，研究者の求めに応じてその都度閲覧が許可されてきたようである．現在資料は未整理で目録はなく，どのような史料があるのか，その保存状態なども分かっていない．

2005（平成17）年の校舎新築により，旧校舎に保管されていた史料を新史料室に移転することになった．これをきっかけに筆者らをメンバーとして史料編纂プロジェクトをたちあげ，本

注1) 本調査では日本看護歴史学会の提案に基づき，「看護婦」，「看護婦生徒」などその時代における名称を用いた．

学所蔵の貴重史料の保存と整理に着手した．現在このプロジェクトは，日本赤十字看護大学附設看護実践・教育・研究フロンティアセンターの研究部門に位置し，資料の収集，整理，保存，展示などの活動を行っている．

以上のような経緯から本調査では，まずは本学史料室所蔵の日本赤十字社病院・同中央病院における看護婦・人等養成に関する歴史的資料の基本調査を行い，またその保存と学術的利用に向けての検討を行うことを目的とした．本調査の結果は，歴史研究のための学術的基盤整備と看護関連史料の将来世代への伝承に向けた一助となると考える．

II．調 査 方 法

1．調査期間

2005年6月から2006年3月

2．調査対象

本学史料室にて所蔵されている，あるいは収集した史料である．収集した資料は古書店から購入，あるいは同窓会を通じて寄贈を受けた．史料は日本赤十字社病院・同中央病院の看護婦・人等の養成との関連の深いものとした．年代の範囲は半現用・非現用[注2)]であることを条件に大学時代のものまで含めた．歴史研究のテーマによっては年代の近いものも史料となる可能性があるからである．

3．調査方法

専門機関の見学や専門家へのヒヤリングを通じて方法を検討し，以下のような調査を行った．

①資料の現状確認では，所蔵している資料の名称，年代，点数，保存状態を調査した．個々の資料の名称と年代については不詳のものが多く，名称については研究者間での討議を経て仮の名称を決め，年代については推定可能なものは推定し，不詳のものは不詳のままとした．

②あわせて史料の保存状態（破損，紛失，退色など）と，虫食い・かびなどの被害状況を確認した．

③①の附加データとして，②の調査で明らかになった保存状態の悪い史料（閲覧のために開くことで史料を痛めてしまう可能性の高い史料の一部）についてフィルム撮影ならびに電子化を行った．

④以上の基本データはデータベースに入力し，史料群にまとめ，年代別に分類した．ふたたび，そのデータを用いて記入漏れや誤記の有無を確認し，史料現物とデータが正しく対応しているかを確認した．

なお以上の調査全体を通じて，資料に付着している埃のクリーニングを行い，資料に応じて和紙や中性紙による保護策を講じた．サイズに適した収納容器が入手しにくい場合を除いて，史料群ごとに品目を記した中性紙の収納容器に保存し，温湿調節の可能な保管庫に所蔵した．

III．調査の結果

1．本学所蔵史料に関する基本調査について

表1に日本赤十字看護大学所蔵史料の分類を示した．また表2に年代別の本学所蔵史料の一覧を文書と写真に限って示した．以下では調査期間に調査することができたものから，(1) 教科書・教育参考資料，(2) 生徒名簿・成績綴・日報，(3) 図譜（掛図），(4) 写真，(5) 音声・記録映像についてその結果を示す．

(1) 教科書・教育参考資料

表3に本学に所蔵されている教科書・教育参考を示した．1890（明治23）年入学の日本赤十字社病院2回生により寄贈された口述筆記ノートは，正確には教科書に分類されないが，養成所開始当時の教育を知る上で貴重な史料である．「看護法」，「治療介輔」，「消毒法」，「解剖及生理篇」，「救急法」，「繃帯学」，「傷者運搬法」，「消毒戝料薬品講義筆記」，「消毒戝料筆記」，「体温

注2) 記録管理，アーカイブズ論で用いる用語を参考にした．記録のライフサイクル論では「現用」とは日常的に業務で使用されている段階，「半現用」とは日常業務では直接利用されないが，業務参考等で利用される可能性のある段階，「非現用」とは所定の保存期間が満了した段階の記録のことを言う．

表1　日本赤十字看護大学所蔵史料の分類

A．文書	教科書等（口述筆記含む），教育参考資料（卒業証書・卒業式の御論旨と答辞） 生徒名簿等，雑誌・年報，書籍，小冊子，ファイル
B．写真	個人写真，卒業記念写真，看護教育記録アルバム，日本赤十字社病院記録写真， 災害救護記録写真，戦時救護記録写真，看護教育関係者所蔵写真，ガラス写真原板
C．物品	図譜，絵葉書，錦絵・双六，音声・映像記録，衣類，医療器具類
D．関係史料	看護婦長候補生・看護人・人長候補生，社会看護婦生徒・外国語学生の教育資料 日本赤十字社篤志看護婦人会の資料，書籍

表2　日本赤十字看護大学所蔵史料の年代別一覧：文書と写真（主要なもののみ掲載）

	文　　書	写　　真
明治 養成所 （1890年頃～1912年）	「看護婦生徒名簿」（明37～） 卒業式の御諭旨（1回～） 卒業生答辞（明39～） 2回生口述筆記（15点） 『看護學教程』（原本） 『看護婦教程』 （治療介輔編と繃帯編）（原本） 『救護員生徒教育資料』 『甲種看護教程』 「日本赤十字社救護員服制」 （明37改正）（原本） 「殿下・社長諭告集」（原本） 「看護婦訓誡」（原本）	個人別写真帳（1回～） 卒業記念写真（1・2回～22回） 災害救護：濃尾地震，三陸津波 戦時救護：日清，日露 日赤病院アルバム（日露戦争時） 渋谷移転時病院写真 高木ハル所蔵写真（日清救護4枚他） 篤志看護婦人会 萩原タケ遺品
大正 養成所 （1912年～1926年）	「看護婦生徒名簿」 「看護婦長候補生名簿」 「本院養成開始以来救護看護婦・ 同婦長候補生調査綴」（1冊）（大8・9） 卒業式の御諭旨・卒業生答辞 『甲種看護教程』 「看護教育　赤十字唱歌」（大5） 「救護看護婦生徒成績綴」（大7～13）	災害救護 卒業写真（37回～48回） 山本ヤヲ遺品 日赤病院35周年記念行事アルバム（大10）
昭和 養成所 （1926年～1945年）	卒業式の御諭旨・卒業式答辞 養成書類（昭5～）約25冊 「看護婦生徒名簿」 「乙種看護婦生徒名簿」 「臨時看護婦生徒名簿」 「看護婦長候補生名簿」 人員日報綴（昭10～）約20冊 教育計画請表綴 「養護訓導養成所指定申請書類」（昭18） 『甲種看護教程教案』 「写真週報」赤十字のもとに（原本）	大アルバム①～⑨（一部大正期） 看護婦生徒アルバム（編集）9冊 修学旅行ほか　アルバム 卒業写真（49回～61回生） 卒業写真アルバム（57回～66回，乙1回） 外国の看護婦（写真と絵） 災害救護写真 ナイチンゲール写真，レコード モントリオールICN写真（昭4）
昭和 専門学校 （1946年～1954年）	卒業式答辞	アルバム（卒業式など1冊） 卒業アルバム（3冊）
昭和 短期大学 （1954年～1985年）	卒業式答辞	編集アルバム（卒業式・戴帽式・スキーなど）15冊 卒業アルバム（3冊）
昭和～平成 大学 （1986年～現在）		大学開学式アルバム（昭61）

表3　教科書等（主要なもののみ掲載，初版の発行年と所蔵する版の発行年を記載）

『日本赤十字社篤志看護婦人會　看護法教程』	（明治22年）
『講義筆記ノート』看護法・治療介輔・繃帶法他15点	（明治23年入学，第2回生遺品）
『日本赤十字社看護婦教程』治療介輔編・繃帯篇	（明治27年12月）
『看護學教程』	（明治29年初版，明治38年9版）
『甲種看護教程』上・下巻	（明治43年初版，昭和6年8版，6版）
『甲種看護教程』掛図	（大正7年初版，昭和6年2版）
『救護員生徒教育資料』	（明治44）
『看護婦生徒修身教授參考書』	（明治43）
『救護看護婦生徒分病室實務參考書』	（明治45）
『RED CROSS READERS』BOOK ONE, TWO	（大正2）
『救護看護婦生徒結核病室實務參考書』	（大正3）
『看護婦生徒　修身訓話』	（大正9年）
『世界看護史』	（昭和7）
『看護教程草案』全3巻	（昭和12）

表」，「鑛泉ニ浴スル利害」，「大手術ノ準備及ビ補助」他がある．本人の署名入りで，全編にわたって筆書きで丁寧に記述されていることから，おそらく各教員が講義に用いた教材を看護婦生徒それぞれが写し取ったものであると考えられる（日赤中央女子短大史研究会，1988）．

1894（明治27）年12月『日本赤十字社看護婦教程（治療介補編と繃帯編）』は現存する初の看護教程である．1896（明治29）年に刊行された初の本格的な教科書である『看護學教程』他，改訂増補により編纂された教科書，実習や修養などで用いられた教科書がある．

表4には教育の参考となる資料を示した．卒業式の御諭旨と答辞は第1回生から短大時代までのものがすべて揃っており，これも各時代における看護婦生徒たちの生活を知るうえで貴重な史料となっている．

表4　教育参考資料（主要なもののみ掲載）

「殿下・社長・副社長論告集」	（明治24～）
看護婦生徒卒業式御諭旨と答辞	（明治25～）
「日本赤十字社看護婦訓誡」	（明治31）
「日本赤十字社救護員服制」	（明治37）
「看護婦養成史料稿」	（昭和2）
「看護教育　赤十字唱歌」	（大正5）
卒業証書，救護員証明書	
「篤志看護婦人會會報」	（明治36～）

（2）生徒名簿・成績綴・日報

表5に示すとおり，1902（明治35）年から1945（昭和20）年までの生徒名簿が保管されている．生徒名簿には氏名，生年月日，本籍，族籍，家族構成，教育背景が記載されている他，卒業後の進路などの情報まで記載されているものもある．また看護婦生徒の背景や教育内容を知ることができる史料として，成績綴，日報，教育計画などがある．

表5　生徒名簿・成績綴・日報（主要なもののみ掲載）

生徒名簿
「看護婦生徒名簿」，「救護看護婦生徒名簿」，「生徒名簿並身上明細簿」等（明治35～昭和20年）

成績綴
「救護看護婦生徒成績報告綴」（大正7～昭和21年）

養成書類綴
「養成書類綴」等（昭和12～20年）

その他
看護婦外国語学生，修業員，救護看護人生徒及び看護人長候補生，
救護看護婦長候補生，社会看護婦生徒に関する書類

(3) 図譜(掛図)

図譜(掛図)は，現代のように教材メディアが発達していなかった時代の主要な教材である．全400巻以上にのぼり，そのほとんどが講師による筆書きである．作成者，作成年ともに不詳なものも多い．幅1.2から1.4 mの大きなもので，一本一本軸に巻いて保管されているため痛みがかなり激しい．

内容は，解剖生理(92巻)，生理衛生シリーズ(全35巻)，歯科(全10巻)，疾患の治療(全25巻)，手術介輔(全6巻)，外傷治療(全16巻)，包帯法(全86巻)，救護法(2巻)，救急法(全35巻)，医療器械(全34巻)，衛生(25巻)，物理(24巻)，米国赤十字ポスター (9巻)，赤十字関係(5巻)，陸海軍関係(全11巻)，その他となっている．

珍しいものとしては，1887(明治20)年飯田町の博愛社病院の患者をモデルに書かれた疾患の治療の掛図がある．また包帯法の掛図は全86巻であり，全身のすみずみを覆うテクニックがわかりやすく図示されており，当時の教育を知ることができる貴重な資料となっている．

(4) 写真

看護婦写真帖には第1回生から38回生(35回生，37回生を除く)まで看護婦生徒の一人ひとりの写真が納められている．欠落しているものも多いが，卒業記念写真，卒業アルバムもある．看護教育関係のアルバムには生徒の生活ぶりがうかがえる写真が多数納められている(表6)．

保存状態が悪いもの，自然現象で写真が退色し，判別しがたい状態になっているものが散見される．またアルバムから脱落して紛失したと思われるもの，利用に際して抜き取られ，散逸してしまったと思われるものも多い．その他，写真のネガとして用いられたガラスの原板も多数残されている．

災害救護，戦時救護の写真を表7，8に掲載した．これらの写真は看護史のみならず，わが国の災害や戦争の歴史を知る上でも貴重な史料となる．創立当時より看護婦生徒であっても，病棟実習や救護訓練の一環として，あるいは看護婦の不足等の理由から，戦時救護や災害救護に参加することがあった．看護婦生徒は救護員の資格をもった看護婦の指導のもと，習熟度に応じた救護を行った．

(5) 音声・記録映像

本学に所蔵されていた，ならびに本学にて収集した音声・記録映像のリストが表9である．ナイチンゲールの肉声入りレコードは，1937(昭和12)年に日赤病院の井深副院長が久邇宮家から下賜されたものであり，ナイチンゲール70歳になった1890(明治23)年のときのがん撲滅運動に際して吹き込まれたものである(日本赤十字中央女子短期大学，1980)．

表6　看護教育関係写真(主要なもののみ掲載)

①看護婦写真帖(個人写真)
1-34回生，支部生，36，38回生，婦長候補生分

②卒業記念写真，卒業アルバム(集合写真)
看護婦・救護看護婦1～2，11，17，20～22，37，41，43，48～61回生，乙種1回生，不明3枚
救護看護婦長候補生・救護看護人長候補生・社会看護婦生徒分

③看護教育関係(大10～昭和15)
授業，見学，実習，担架訓練，弓術，調理実習，日赤病院，旧校舎と新教養所と養心寮，
外来棟新築，病院50周年行事，修学旅行，救護班出発，戦時救護，関東大震災，伊豆地震

④ガラス写真原板

表7　戦時救護関連写真（主要なもののみ掲載）

大演習	汽車病院（明治25年特別大演習宇都宮～東京）
日清戦争（1894～5）	広島における看護婦集合写真 広島における看護婦と傷病者 日本赤十字社病院での清国捕虜治療の図（其一，其二）（図版） 同上（複製） 患者看護の状況（場所不明） 救護員（男女）の集合写真 救護員と捕虜患者 台北兵站病院第一分院（天后宮）内部の図
北清事変（1900）	弘済丸乗組の看護婦集合写真
日露戦争（1904～5）	広島における男女救護員と傷病者 英リチャード夫人と日赤看護婦たち 日本赤十字社病院での看護婦と傷病者 篤志看護婦人会会員の捕虜の看護 病院船　博愛丸の全景，土佐丸の全景 日露戦争中の日本赤十字社病院（アルバム） 大阪予備病院写真帖（2冊）
第1次世界大戦（1914～）	イギリス派遣救護班（7枚）（出発・ホノルル・サンフランシスコ・ネットリー病院） 東部シベリア派遣救護班アルバム（3冊）
満州事変	満州事変衛生勤務記念写真帖（図版）
上海事変（1931・32）	臨時救護班の活動状況（アルバム）
日華事変（1937）	陸軍病院での救護状況（台紙3枚計13枚） 日赤第1救護班アルバム（図版）

表9　音声・記録映像

音声	1890年	ナイチンゲール肉声入りレコード
映像	1935年	赤十字看護教育の概況
	年代不詳	患者輸送機
	1939年	戦ふ女性
	1949年	この愛の旗のもとに
	1961年	生きている明治（日赤病院，手術室）
	1977年	百年目を迎えた日赤

表8　災害救護関連写真（主要なもののみ掲載）

濃尾地震（1891年）	岐阜県古橋村の日本赤十字社仮病院診察場 同上　　全景 愛知県小折村の日本赤十字社仮病院（3枚） 県下祖父江村の慈恵医院治療所
三陸津波（1896年）	救護員集合写真（場所不明） 同上（宮古） 宮古治療所の救護員 岩手県盛治療所の救護員と患者 救護員と患者（場所不明）（複製） 日本赤十字社救護所（場所不明） 宮古鍬ヶ崎町の惨状
関東大震災（1923年）	宮城前広場大テント（複製） 日本赤十字社病院への患者搬送（3枚） バラック病舎　外科病室 同上　（3枚） 同上　整形外科治療室　（3枚） 同上　内科病室　（3枚） 日赤岐阜支部救護所看護婦と患者（福田会庭内） 恩賜の浴衣着用の患者（3枚） 同上　（3枚） 同上　（2枚） 同上　（1枚）
豆相地方震災救護写真帖（1930年）	日本赤十字社病院
三陸地方大震海嘯（1933年）	救護実況写真帖

Ⅳ．考　　察

以上，本学所蔵分の重要資料のうち確認された史料を上に述べてきた．名称，年代，点数のみの最小限のデータであり，国際標準のメタデータによる記述には達していないが，史料の概略は明らかになった．年代別に見ると，明治期から昭和前期までの古い史料のほうが多い．生徒名簿などの書類の保存はもちろんだが，明治大正の写真などは日本を代表する著名な写真家によって撮影されたものもあり，これらについては大切に保管されたと考えられるし，もとの品質が高いことで現在のような程度の退色の状態で維持されているとも考えられる．その一方で専門学校以降の史料は少ない．近年のデジタ

ル化は便利ではあるが，本学の明治期の史料のような長い保存年月に耐える記録資料となるかは疑問である．

保存状態についてはとりわけ掛図の破損と写真の退色が著しかった．文書については特に太平洋戦争末期から昭和30年代の文書（もとの紙の質が良くないことによる）の破損が目立ち，保存処置の必要性が明らかになった．

Ⅴ．今後の課題

調査ははじまったばかりであり，今回の調査期間内に調査しきれなかったものも多い．調査を通じて明らかにされた史料のリストは，いずれキーワードを付し，画像データも含めて入力・整理し，データベース化したものをウェブ上で公開するなどして，教育や研究などの学術的な利用に供することも可能である．

戦後60年を経た現在，当時の看護教育を体験した人々の証言を収集することの重要性が高まっている．さらなる史料の収集に向けて関連機関における史料の調査を行う，寄贈を募る，古書店を通じて購入するなどの方法も考えられる．また支部病院における看護婦・人等の養成，また陸軍病院等における養成などの関係資料の調査も必要である．

わが国の看護に関する歴史研究のみならず，明治以来のわが国の医療，災害，戦時救護などの研究教育においても，本学史料の利用が促進されれば，また史料の保存にとっても良好な環境がもたらされるものと考えられる．

謝　辞

本研究は平成17年度課題研究費の助成により行いました．心より感謝申し上げます．

引用・参考文献

酒井シズ（1995）．医療史料の保存と活用に関する研究．平成6年度厚生科学研究費補助金特別研究事業報告書，1-25.

高橋みや子（2004）．日本の看護歴史関連史料の専門的基盤整備のための調査研究．平成14,5年度科学研究費補助金（基盤研究C1）報告書．

亀山 美知子（1983）．近代日本看護史　日本赤十字社と看護婦，ドメス出版．

日本赤十字社（1957）．日本赤十字社八十年小史．

日本赤十字中央女子短期大学（1980）．日本赤十字中央女子短期大学90年史，日本赤十字中央女子短期大学．

日赤中央女子短大史研究会（1988）．写真記録日本赤十字看護教育のあゆみ，蒼生書房．

日本赤十字社企画広報室（2001）．日本赤十字社資料（都道府県支部分）調査のまとめについて（中間報告）資料．